

あおぞらだより

第164号(発行/平成29年1月)

新年のご挨拶
年末年始

新年の挨拶

江戸川病院院長 新村ヨシオ



作業療法作品/桃源

新年明けましておめでとうございます。新年を迎えるにあたり、抱負を述べたいところではありますが、今年是不安が募るばかりで、人類が積み上げてきた価値観をはじめ経験値は役に立ちそうもなく、先が読めなくなっています。世界は混沌とし、イギリスのEU離脱をはじめ、中国経済の底力や金融の勢力分布の変化、アメリカの次期大

統領トランプ氏の誕生と衝撃的な出来事、それに欧州での極右政党の台頭の報道をみても、既成政党の衰退が予想されています。テロも頻発し、中東では内戦が止まず数百万の難民がヨーロッパに流出し、難民支援が経済的負担となって、受け入れ先の国では政情不安になり、政権交代も囁かれています。このような不確実な社会では良い考えは浮かばず、守勢の気持ちが優先します。

確かに世界経済は不況であり、それぞれの国は財政困難となり、苦肉の策で赤字国債を発行しているのが現実です。破綻寸前の国もあり、連合国の支援によって生き延びても根本的解決になっていないようです。日本に於いても個人消費の低迷や賃金も上昇も止まり、将来への不安感から「た

んす預金」と堅実な方法を選択している人が多いようです。国はアベノミクスによって2%の物価上昇を目指し、賃金上昇を見込み好循環を期待していたが、景気回復の兆しすらも実感できないのが現実のようです。バブル経済が崩壊し、価格破壊が進行し、デフレ経済の真っ只中であり、国の将来像が全く見えないのが本当のところですよ。

このような現実には、日本に於いては20年以上続いており、生き残りをかけて、それぞれの業界で努力してきたと思われそうですが、自然に淘汰されてきているようです。技術立国であるにも拘らず、物造りの会社も合併を余儀なくされ、延命を選択させられています。優秀な技術で良質な製品を造っても、単価が安く会社が潤うことはなく、人件費も払えず倒産の憂き目を見るといった残酷なことが起こっています。とても対岸の火事のように思えません。

医療に於いても単価は20年以上据え置き同然であり、病院も淘汰されているようです。とくに、過疎化や少子化は深刻であり、医療以外の産業も撤退や廃業などで地域は疲弊しています。この現実を知って、地方創生、地域活性、ふるさと創生に本気で取り組んでいるのかは疑わしく思っています。

医療も常に前進を求められ、技術の向上、安全や感染症の管理の徹底、接客技法の研修など職員は日々研鑽しています。対外的にも検証を受け、県の医療監査や実地指導という行政の監督があつて、昨年は関東信越厚生局の調査を受け、概ね適正に機能していると総括されました。皆なは頑張つて質を上げているのに、医療費の値上げは据え置きで職員に対価の賃金が払えてないようで心苦しく思っているところです。医療は行政によって価格統制を受けており、ある意味では安定業種とも受け取られていますが、運営には苦勞させられています。

日本を見れば政治的には安定し、平和と言える現実には感謝し、高望みしないで毎日働くことが大切であると思えるようになってきました。今年は淡々と社会的そして職業的義務を全うし、患者さんに選ばれる病院になれるようにと祈念し、この1年精進したいと新たに決意しました。今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

新年のご挨拶

副院長 井上雅喜

新年おめでとうございます。

昨年から今年にかけて、国の内外では大きな変化が続々と起こりました。今後、私たちの生活にどのような影響が及んでくるのか予断を許さない状況になっています。これまで、不況のために低賃金で不安定な仕事にしか就けない方が多いと言われていました。しかし、少なくとも医療・介護の分野で人手不足が目立つようになってきています。当院もその例外ではなく、事情があって退職した職員の代わりを探すのがとても難しくなってきたのが実情です。

一方で、国民全体の高齢化を反映して当院の病棟・外来でも患者様の平均年齢は年々上昇しています。それに伴って病態は複雑化し、きめ細かい配慮が必要となる方が多くなりました。現場の職員は日々の業務でこのような難しさを常を感じながら奮闘しているわけですが、患者様、ご家族様からご覧になると力不足に見える点も少なくなく、申し訳なく存じます。

ところで、最近、AI(人工知能)という言葉をよく目にするようになりました。コンピューター技術の進歩により、今までは生身の人間にしかできないとされていた複雑な判断を機会だけで下せるようになっていくのだそうです。現に、以後や将棋の世界では、AIが有力棋士に勝ったというニュースが毎日のように流れています。また、身近なところでスマートフォンに話しかけると、まるで中に人間がいるかの如く、自然な会話が成立してしまったりします。いずれは弁護士や医師などの職業でさえ、AIに取って代われるのではないかと予言する人さえいます。

個人的には医療・福祉のように人と直接接する仕事が、そう簡単に機械に置き換わるとは思えません。とはいえ、これからの病院は、生身の人間ならではのきめ細かい配慮と、確かな知識や技術に裏打ちされた力量と、両方を兼ね備えていないと本当に「機械の方がまし」と言われかねません。少ない人手でも質の高い医療行為が実現できるよう、一層の努力をしなければならぬと、決意を新たに今年1年精進して参ります。

新年を迎えて

事務長 間中 克知

新年あけましておめでとうございます。
皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。
酉年の今年は、せわしなく動き回らず、どっしり構えて精神科病院としての役割を見直していきたいと考えます。
昨年は、精神科医療を振り回す大事件が縦続きに起こりました。再発を防ぐためにも、当たり前と考えていた行為を見直し、全職員で改善に取り組んでいきたいと思っております。
当院には、以前よりご意見箱を設置しておりましたが、劣化し存在がわからずご迷惑をお掛けしました。このほど、ご意見箱を改修し精神科および内科玄関脇に再設置いたしました。
患者の皆様、職員の、多くの方のご意見をお待ちしております。
皆様のご意見を参考により良い病院をめざします。
ご協力をよろしくお願い申し上げます。
今後も地域との連携・協力を一層に図り、安心と安全に取り組んでまいります。
本年も江戸川病院をよろしくお願い申し上げます。

感謝と願いⅡ

看護部長 関 恵美子

新年おめでとうございます。
猛スピードで走り抜けた一年のように感じています。年齢と同じ時速で時は流れているのでしょうか。立ち止まって考えたりする時間はあるのでしょうか？それでも時は流れ、その時間の中でできる精一杯の対応をしていかなければならない現実の中で、もがき苦しみながら自分を信じて進んでおります。果してよかったのかどうなのかと思うことはもちろん考えています。反省も沢山しておりますが...
時代は確実に私達医療の現場で働く者にとり、厳しく立ち向かってきております。いろいろな縛りの中で正確に理解をしながら、きっちりと果してこそ胸を張れることと考えます。年頭のあいさつでも述べさせていただきましたが、私達の仕事は色々な職種の集合体です。どの職種が欠けても結果は出ないわけです。だからこそ仲間の行っている内容を理解し、信頼関係を大事にし、尚且つ自身のことも理解してもらうために言語を使い、しっかりと伝えることから始まると考えております。
一人ではなく、多数の職種のスタッフと共に、歩みを止めることなく同じ旗を見続けながら諦めることなく、患者様にとり意味のある職員であり続けたいと思う今日この頃です。それもこれも、皆様がいって成り立っていることと感謝しております。
共に喜び、共に苦しみを職場のスタッフと体験していることを無駄にせず、穏やかな空気と心を提供できるよう、丁寧に大事にし、仕事に向かう姿勢を持ち続け、努力をしていきたいと考えております。



←桃源のクリスマス会では「若草会」の子ども達による合唱やハンドベルの演奏が行われました。

年末

2016



↑病棟のクリスマス会ではカラオケをしました

←たくさんの風船の飾り付けがクリスマス会の雰囲気盛り上げました



←風船を割って、お菓子をもらいます。



年始

2017

←1月4日仕事始めの朝、院長から新年の挨拶がありました。今年も1年よろしくお願ひいたします。